日本郵船株式会社

2014 年 11 月

2015 年 3 月期第 2 四半期決算説明会　質疑応答の要旨

【定期船事業】

Q1　コンテナ船事業の下期の見通しを教えてください。

A1　上期はコンテナの効率的利用による粗利の最大化プロジェクトや燃節活動などコスト削減活動に努め成果を出しました。また、空きスペース削減に向けた新たな取り組みも始めており、積み高は昨年比で 14%伸びています。下期もこれらの取り組みを続け目標を達成したいと考えています。また、バンカー消費量が大変多い事業ゆえ、バンカー安による影響も大きく出ると考えています。

【貨物航空事業】

Q1　NCA の足元の強い需要に関し、見通しを教えてください。

A1　現在荷況は強く、JAFA 統計によると昨年 11 月から現在まで前年度比で増えており、2011 年度並みの水準（月間輸出貨物重量 8 万トン超）に戻ってきています。日本出しは自動車関連が多いですが、香港出し・上海出しで電化製品も多く出ています。この荷況は少なくとも今年いっぱいは続くと見ています。

【不定期専用船事業】

Q1　海洋事業に関し、原油価格の急落によって FPSO やシャトルタンカーのビジネスモデルに影響はないか教えてください。

A1　FPSO に関しては、すべて長期契約ですので原油価格による影響はないと考えています。シャトルタンカーに関しても基本的には 5～10 年の長期契約になるので影響ないと考えていますが、一部スポットで運航しているものもあり、若干の影響を受ける可能性はあるかもしれません。ただし、足元タンカー市況は上昇中で（シャトルタンカーは通常のスエズマックス・アフラマックスとして利用可能）、スポットが取れなくても一般タンカーマーケットに出すことで好市況を享受できるので、特に心配する必要はないと考えています。